備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要

事業開始年度			H2年10月～	根拠法令・例規等	備前市補助金等交付規則
総合計画 大項目	基本目標	04	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	問合先 担当課（室）	商工観光課
総合計画 中項目	基本施策	02	起業と創造が支えるまちづくり	問合先 職・氏名	商工労政係長　貞友武典
総合計画 小項目	施策	03	工業	問合先 電話	0869－64－1832
事務事業名		01	適応業種支援事業	このシート作成に要した時間	2.0 時間

事業の目的

対象（誰・何に対して）	地場企業、地場企業従事者
目的（何のために）	耐火物、備前焼など地場産業や伝統産業のもつ高度な技術を生かした新しい工業を振興するため、岡山セラミックスセンターの機能を活用して異業種間の交流や関係業種間におけるシステム化の推進を図る。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	市内耐火物企業の技術力の向上と産業の活性化を目指し、雇用の拡大を図る。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
岡山セラミックスセンター補助事業	岡山セラミックスセンターに対し、異業種間の交流や関係業種間におけるシステム化の推進を目的として、岡山セラミックスセンター運営に要する経費の一部（4,279,000円）を補助する。	◎

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業費等	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
事業費 直接事業費	千円	6,338	4,754	4,279
事業費 必要人員 人件費	千円	0.01人 93	0.01人 107	0.01人 82
事業費 事業費計	千円	6,431	4,861	4,361
決算額 財源 国県支出金	千円			
決算額 財源 受益者負担	千円			
決算額 財源 繰入金	千円			
決算額 財源 市債	千円			
決算額 財源 その他（　）	千円			
決算額 財源 一般財源	千円	6,431	4,861	4,361
受益者負担比率	%	0.0%	0.0%	0.0%

結果指標名	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
試験、分析実施件数	説明	実施した耐火物やセラミックスに関する試験、分析件数		
結果指標 結果指標量	件	10,301	9,479	9,240
結果指標 対前年比	%	－	92.0%	97.5%
結果指標 活動コスト	円	6,431,000	4,861,000	4,361,000
結果指標 単位当たりコスト	円	624	513	472

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
試験、分析実施件数	目標値（A）	10,000	10,000	10,000	10,000
	実績値（B）	10,301	9,479	9,240	到達目標値
	達成率（B/A）	103.01%	94.79%	92.40%	10,000

成果指標設定の考え方・式や説明

岡山セラミックスセンターが実施した耐火物やセラミックスに関する試験、分析件数

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

事務事業の評価

妥当性の評価

市の関与の妥当性・必要性

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>: **B**

効率性の評価

コスト手段

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☑ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>: **C**

有効性の評価

目的達成度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>: **C**

進行年度（H22年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

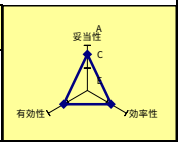
説明

平成18年度から平成21年度までの4年間で約3,000千円の補助金を減額してきたため、削減の余地が見出せず、今年度の補助金は据え置きとなった。

総合評価

耐火物の研究施設である岡山セラミックスセンターに対する補助金は、地場産業の育成、開発のためには必要であるが、セラミックスセンターが実施している監査、分析等の収入の増加に努めるなど、安定した収入源の確保を図ることが重要である。

評価区分 <A～E>: **C**



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

取組目標

耐火物の研究施設である岡山セラミックスセンターに対する補助金は、地場産業の育成、開発のためには必要であることから、今後も継続していくことが重要である。ただし、実施事業の効率化や検査分析を積極的に受け入れ、受託収入の増大を図り、より自主財源で運営するなど経営努力を促していく。